

史跡探訪レポート

市内―鉄輪湯けむり散歩

本年度は研修部の企画の下に、NPO鉄輪湯けむり倶楽部の案内による鉄輪地区の歴史散歩（現状含む）が、八月十七日（日）に行われました。その時のレジュメを次に記しますので、参加できなかった方々も雰囲気を感じていただきたいと思います。なお、レジュメは矢島嗣久理事さんの提供です。

鉄輪湯けむり散歩コース

大谷公園 昭和二十三（一九四八）年十月五日、鉄輪温泉

で遷化（死去）された西本願寺第二十二世門主大谷光瑞鏡如上人を記念して設けられた公園である。園内には光

瑞上人の業績を讃えたシルクロード探検隊の記念碑もある。光瑞上人は料亭「なるみ」の創業者、高岸源太郎が所有する土地に、当時としては粗末な別荘を建てて住んだ。

光瑞上人が遷化された後、この土地は高岸源太郎、盛雄夫妻（二代目女将）が別府市に公園用地として寄贈した。公園の土地は三段になっていて約七百五十四坪（二千五百平

方メートル）ほどある。公園内東北側に立っている「光瑞上人遷化の碑」は高岸源太郎が建てた石碑で、碑文は白杵出身の南画家、甲斐虎山（帛山）の揮毫。石碑の北側には宇都宮則綱や元旅館「ときわや」の主人、加藤稱司らによって「高岸源太郎翁頌徳碑」が建てられている。公園は平成二十年四月にリニューアルされた。全国的にも珍しい「足岩盤浴」の施設も出来た。

瑞光寺 公園南側の小川（平田川）を隔てた隣接地は、当時

広島の寿司屋「四斗平」経営者首藤氏所有の畑であったが、昭和三十（一九五五）年秋には大谷光瑞還淨地「瑞光寺大谷会館」が建設された。この寺院には光瑞鏡如上人の遺品や写真が展示されている。遷化のさい、脇鉄一別府市長に贈られた上人使用の両袖机が保存されている。

鬼山ホテル 宇都宮則綱が創業したホテルで、一階ロビーに

は、画家東郷青児が描いた別府の風景画が展示されている。

鉄輪地獄地帯公園 付近には海地獄、山地獄、旅館「神和苑」、

かまど地獄、鬼山地獄などがある。

旅館「神和苑」 一万四千坪（四万六千二百平方メートル）

の広さをほこる神和苑（かんなわえん）庭園。広大な苑内の各所に貴重な文化財である灯籠、石塔が点在し、苔むす

五輪塔は四十四基の数にもおよぶ。しかし、それ以上に知ってほしいのは、この庭が神和苑をかこむ別府の自然にそのままとけ込んでいることである。四季の花々、春にはイノシシがおりてくる。神和苑庭園内に湧きだす湯は、轟音をとどろかせながら吹き上がる沸騰蒸気泉。そして今一つが、泉温摂氏七十五度、不思議なブルーの湯をたたえる「青の湯」である。はじめ無色透明の湯として地上にあらわれるこの温泉は、数日の内にその色を目の覚めるような青に変え、やがて素肌にもなめらかな乳白色となっていく。本館六室、離れ五棟。平成十二年（西暦二〇〇〇年）にリニューアルされた。

休憩「お食事処 湯沢家」 この店で飲み物が提供され、休憩ができる。この通りを「みゆき坂」という。

上人湯 一遍上人を記念して「上人湯」という。この温泉の建物は別府市のHOPPE賞を受賞している。この通りを「いでゆ坂」という。

ギヤラリー「富士屋」 以前は旅館を経営していて、有名人も宿泊していた。福岡県飯塚の炭鉱王、麻生太吉や伊藤伝右衛門もここに宿泊しており、やがて市内山の手地区に麻生別荘や伊藤別荘、のちの「ホテル赤銅御殿」を建てたと

いわれている。現在はリニューアルされて「富士屋ギヤラリー」、一也百（はなやもも）となっており、音楽会や講演会も開催されている。「富士屋」は国登録有形文化財にも指定されている。

市営温泉「熱の湯」 一遍上人が熊野権現の霊力を以て開いたと伝えられる。湯ぶねに朝日がさすと、上人が湯の底に書いて埋めた「南無阿弥陀仏」の名号が湯面に浮かぶというので「浮きの湯」とも呼ばれた。怒りの湯、金の湯の異名もある。現在は市営温泉で、無料で入浴できる。

サカエ屋旅館 地獄蒸し釜の見学ができる。

地獄蒸し釜 江戸時代中期、温泉の噴気を利用した地獄蒸し釜は、日常行われていたが、今も住民や湯治客に利用されている。噴気の温度は摂氏百度以上で、堅ゆで卵なら十分、さつま芋二十分ほど。ホーレン草、白菜類なら二〜三分で調理できる。

市営「鉄輪むし湯」 一遍上人が築造したという当時の面影をほぼそのまま残す。敷き詰められた石菖せきしょうの薬効が噴気を通して体を癒してくれる。平成一八年（二〇〇六年）八月二十四日、リニューアルされた。入湯料は五百円。蒸し湯の前の広場には足蒸し湯の施設もある。

温泉山、永福寺 本尊は上人自身の作といわれる一遍上人の座像。秋の「湯あみ祭り」では、この上人像の湯あみが行われる。



「鉄輪湯けむり散歩」参加者記念写真（温泉山永福寺本堂前）

市外—求菩提山資料館・耶馬溪羅漢寺

十一月十六日(日)、恒例の市外史跡探訪が実施されました。前夜の大雨の後でしたが、三十六名の参加がありました。この項もレジュメにそいながら振り返ってみます。

観光港花時計上広場を八時三十分に出発して、一路北上し豊前市千束より福岡県道三十二号線にて西に求菩提山を目指し、岩岳川沿いに上ること三十分で求菩提山資料館に到着。館長恒遠俊輔さんの案内で、説明を拝聴しながら小一時間の見学学習を終え、昼食場所豊前道の駅「おこしかけ」に向かいました。

約一時間半の「おこしかけ」屋台村にての昼食・おみやげ買いを済ませて、耶馬溪へと向かいました。青の洞門・競秀峰の紅葉を眺めながら羅漢寺に到着。リフトに揺られながら山上へ登り、堂内くぐりを終えて極楽に到達し、庭内より眺望を楽しみ下山しました。

午後のバス移動のひと時は、島節子理事さんの指導による「秋にちなんだ歌」等を合唱しながら親睦を深め予定通り無事帰りつきました。次に三重野副会長さん提供の資料を掲載しますので参考にして下さい。